

令和6年用さといも・アスパラガス病害虫防除基準

※殺虫剤を散布する場合は、訪花昆虫に対する薬剤ごとの安全使用基準を徹底する。

発行：J A さがえ西村山
さがえ西村山野菜振興協議会

さといも

防除時期	対象病害虫名	RAC	防除方法〔収穫前使用日数/使用回数〕	注意事項
植えつけ前	乾腐病	8F	本畑の土壌消毒。 バスアミド微粒剤 [®] 10a 当たり30kg〔植付21日前まで/1回〕を均一に散布して土壌混和する。	
植えつけ時	(腐敗病)			1. 輪作を行う 2. 発病畑は3～4年イネ科作物を栽培する。
	アブラムシ類	4A	アドマイヤー1粒剤を10a 当たり4kg〔植付時/1回〕植溝土壌混和する。	
植えつけ時 生育時	(汚斑病)			1. 植えつけ時に窒素肥料の過用を避け、カリ肥料を十分施す。
	コガネムシ類幼虫	1A	オンコル粒剤5 10a 当たり9kg〔60日前まで/1回〕土寄せ時に株元土壌混和する。	
生育期	ハスモンヨトウ	3A UN	トレボン乳剤 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔14日前まで/3回以内〕 プレオフロアブル 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔7日前まで/2回以内〕	1. 合成ピレスロイド剤(トレボン乳剤、アディオ乳剤)は、蚕・魚類に対する毒性が特に強いので注意する。また、抵抗性害虫出現防止のため同一ほ場での総使用回数は2回以内とする。 2. アディオ乳剤は、葉柄を収穫する場合(ずいきなど)、使用回数は2回以内とする。 3. オンコル粒剤5、ウララDF、プレオフロアブル、マイトコーネフロアブルは葉柄を収穫する場合(ずいきなど)は使用しない。
	スズメガ類	3A UN	アディオ乳剤 3,000倍 (3.3ml/10ℓ)〔7日前まで/5回以内〕 プレオフロアブル 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔7日前まで/2回以内〕	
	アブラムシ類	3A 29	アディオ乳剤 3,000倍 (3.3ml/10ℓ)〔7日前まで/5回以内〕 ウララDF 2,000倍 (5g/10ℓ)〔7日前まで/2回以内〕	
	ハダニ類	20D	マイトコーネフロアブル 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔3日前まで/1回〕を10a 当たり100～300ℓ 散布する。	
	カンザワハダニ	13	コテツフロアブル [®] 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔7日前まで/2回以内〕を10a 当たり100～300ℓ 散布する。	
				1. コテツフロアブル [®] は、ハスモンヨトウにも登録がある。

農薬の使用にあたっては、使用回数に加え、有効成分ごとの総使用回数も定められているので遵守する。

成分名	農薬名	RAC	使用回数	同一成分総使用回数	成分名	農薬名	RAC	使用回数	同一成分総使用回数
トリフルリン	トレファノサイド乳剤	3	1回	1回	ペンディメタリン	ゴーゴーサン細粒剤F	3	1回	2回以内
	トレファノサイド粒剤2.5		1回			ゴーゴーサン乳剤		1回	

除草剤使用基準(葉柄収穫の場合は基準が異なる)

	薬剤名	RAC	10a 当り薬量/散布量	使用時期	使用方法	使用回数	適用雑草	特性
土壌処理剤	種芋もしくはは苗植付後	3	300～400ml/100ℓ	植付後(但し植付7日後まで)	全面土壌散布	1回	一年生雑草	・ツクサ科、カヤツリグサ科、アブラナ科、キク科雑草には効果がない。
	種芋植付後		4～6kg	植付後(但し植付7日後まで)	全面土壌散布	1回	一年生雑草	・ツクサ科、カヤツリグサ科、アブラナ科、キク科雑草には効果がない。 (下記※注意事項参照)
	種芋植付後	3	4～6kg	植付後萌芽前(雑草発生前)	全面土壌散布	1回	一年生雑草	・ツクサ、キク科雑草には効果が劣る。
			200～400ml/70～100ℓ	植付後萌芽前(雑草発生前)	全面土壌散布	1回	一年生雑草	・ツクサ、キク科雑草には効果が劣る。
茎葉処理剤	バスタ液剤	10	300～500ml/100～150ℓ	雑草生育期: 植付前又は畦間処理(収穫30日前まで)	雑草茎葉散布	3回以内	一年生雑草	・非選択性、スギナに効果高い。
	ナブ乳剤	1	150～200ml/100～150ℓ	雑草生育期(イネ科雑草3～5葉期)(収穫30日前まで)	雑草茎葉散布	1回	一年生イネ科雑草	・遅効性で枯死するまで7～10日必要。 ・スズメノカタビラには効果がない。

※葉柄を収穫する場合使用できるのは、トレファノサイド粒剤2.5のみであり、使用時期が「植付後(マルチ前)但し植付7日後まで」となるので注意する。

アスパラガス

防除時期	対象病害虫名	RAC	防除方法〔収穫前使用日数/使用回数〕	注意事項		
生育期	立枯病	3	トリフミン水和剤 1,000倍 (10g/10ℓ)〔7日前まで/1回〕を1㎡当たり3ℓ かん注処理する。	1. EBI剤(トリフミン水和剤、ラリー水和剤)は、耐性菌出現防止のため、総使用回数は2回以内とする。 2. アミスター20フロアブルは、展着剤の種類によって薬害の恐れがあるので加用しない。また、りんごに薬害を生じるため飛散しないように注意する。 3. アミスター20フロアブルは、耐性菌出現防止のため、連用は避け、総使用回数は2回以内とする。 4. 茎枯病、斑点病には、Zボルドー500倍(20g/10ℓ)〔-/-〕を使用してもよい。 5. Zボルドーは、水稲(穂ばらみ期～出穂期)に薬害が出るので飛散しないように注意する。 6. 春どり栽培では、収穫打切り直後穂先が開かない時から散布を開始し、梅雨期間中の防除を徹底する。 7. 枯死茎葉は刈り取り、ほ場に残さず適切に処分する。 8. 茎枯病対策として、ペフラン液剤25 1,000倍(10ml/10ℓ)を〔収穫終了後(冬期まで)/5回以内〕散布する。		
	斑点病	3	ラリー水和剤 4,000倍 (2.5g/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕を10a 当たり150～300ℓ 散布する。			
	茎枯病 斑点病 褐斑病	M1	コサイド3000 2,000倍 (5g/10ℓ)〔-/-〕			
		M5	ダコニール1000 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔前日まで/4回以内〕			
		M7	ベルコート水和剤 1,000倍 (10g/10ℓ)〔7日前まで/5回以内〕			
		11	アミスター20フロアブル 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/4回以内〕			
	茎枯病	M1	クプロシールド 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔-/-〕を10a 当たり100～400ℓ 散布する。			
		1	ベンレート水和剤 2,000倍 (5g/10ℓ)〔前日まで/4回以内〕			
		2	ロブラール水和剤 2,000倍 (5g/10ℓ)〔前日まで/5回以内〕			
		7	アフエツフロアブル 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/4回以内〕			
		ネギアザミウマ(アザミウマ類)	5 34		ディアナSC 2,500倍 (4ml/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕を10a 当たり100～500ℓ 散布する。 ファインセーフフロアブル [®] 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕を10a 当たり100～800ℓ 散布する。	1. ディアナSCは、アザミウマ類として登録があるほか、コナジラミ類、ハスモンヨトウ、オオタバコガにも登録がある。
		カメムシ類	4A		スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 (5g/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕を10a 当たり100～800ℓ 散布する。	1. スタークル顆粒水溶剤は、アザミウマ類にも登録がある。
		ジュウシホシクビナガムシ アブラムシ類	3A 4A		アディオ乳剤 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕 モスピラン顆粒水溶剤 [®] 4,000倍 (2.5g/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕	1. アディオ乳剤は、ヨトウムシ、カメムシ類にも登録がある。 2. モスピラン顆粒水溶剤 [®] はアザミウマ類、コナジラミ類にも登録がある。 3. アディオ乳剤は蚕・魚類に対する毒性が特に強いので注意する。
		ハスモンヨトウ(オオタバコガ)	UN 28 30		プレオフロアブル 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕 フェニックス顆粒水和剤 2,000倍 (5g/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕 グレーシア乳剤 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕を10a 当たり100～500ℓ 散布する。	4. フェニックス顆粒水和剤は、ヨトウムシにも登録がある。 5. グレーシア乳剤は、アザミウマ類、ジュウシホシクビナガムシ、ハダニ類にも登録がある。

除草剤使用基準 ※センコル水和剤は使用方法が変わったので、特性をよく読んで使用する。

	薬剤名	RAC	10a 当り薬量/散布量	使用時期	使用方法	使用回数	適用雑草	特性
土壌処理剤	クレマート乳剤	3	200～400ml/100～150ℓ	萌芽前(雑草発生前)	全面土壌散布	1回	一年生雑草	・ガス化しないので、ハウス栽培、マルチ栽培で使用できる。
	トレファノサイド乳剤	3	200～300ml/100ℓ	萌芽前または収穫打切後(雑草発生前)	全面土壌散布	1回	一年生雑草	・ツクサ科、カヤツリグサ科、アブラナ科、キク科雑草には効果がない。 ・トンネル・ハウス栽培ではガス化による薬害による恐れがあるので使用しない。
理剤	ロロックス	5	150～200g/70～150ℓ	萌芽前(雑草発生前～発生始期)	全面土壌散布	1回	一年生雑草	・広葉雑草に効果が高い。 ・砂質土壌では使用しない。
茎葉処理剤	センコル水和剤	5	100～150g/100ℓ	萌芽前～萌芽始期または収穫打切後(雑草発生前～4.5葉期)	雑草茎葉散布又は全面土壌散布	1回	一年生雑草	・促成栽培の場合は株掘り取り終了後のみの使用とする。 ・擬葉にかかると葉先枯などの薬害を生じるので注意する。
	ナブ乳剤	1	150～200ml/100～150ℓ	雑草生育期(イネ科雑草3～5葉期)(収穫前日まで)	雑草茎葉散布又は全面散布	1回	一年生イネ科雑草	・遅効性で枯死するまで7～10日必要。 ・スズメノカタビラには効果がない。
	バスタ液剤	10	300～500ml/100～150ℓ	雑草生育期: 萌芽前または畦間処理(収穫前日まで)	雑草茎葉散布	2回以内	一年生雑草	・非選択性、スギナに効果高い。 ・散布後6時間以内の降雨で効果が低下するので注意する。
	ザクサ液剤	10	300～500ml/100～150ℓ	雑草生育期: 萌芽前または畦間処理(収穫前日まで)	雑草茎葉散布	2回以内	一年生雑草	・非選択性
剤	ラウンドアップ マックスロード	9	200～500ml/50～100ℓ	雑草生育期(耕起前まで)	雑草茎葉散布	1回	一年生雑草	・少量散布の場合は10a 当たりの散布量を25～50ℓ とする。 ・吸収移行型除草剤
			1,500～2,000ml/50～100ℓ	雑草生育期: 畦間処理(収穫前日まで)	雑草茎葉散布	2回以内	スギナ	・茎葉刈り取り後、越冬雑草に処理しておく効果が高い。

成分名	農薬名	使用回数	同一成分総使用回数	成分名	農薬名	使用回数	同一成分総使用回数
グルホシネート及び グルホシネートP	バスタ液剤	2回以内	2回以内	イミノクタジン	ベルコート水和剤	5回以内	5回以内
	ザクサ液剤	2回以内			ペフラン液剤25	5回以内	